心豊かな「すてきさん」つくり　～ えがお ・ げんき ・ あいさつ ～

かんがえ，やってみる子　いたわり，助け合う子　せいいっぱいがんばる子　いきいきと元気な子

咲き誇るすくすく広場のマリーゴールド

開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第６号
発行日：令和６年１０月２５日（金）
発行者：園長　杉山　孝史

季節は秋へ

１０月も後半です。夏の暑さもようやく影を潜め、大分過ごしやすくなってきました。子どもたちは園庭に落ちている桜の葉を拾い集めたり、バス停付近で捕まえたコオロギを持って登園したりしながら、季節の移り変わりを肌で感じています。この先寒さが増してくると、風邪やインフルエンザの流行も気がかりです。引き続き、園においては**「うがい・手洗い・換気」**などをこまめに行って感染防止に努めてまいりたいと思います。各ご家庭におかれましても、健康管理には十分ご留意ください。

もりフェス がんばったぞ！

１０月１２日（土）、澄み渡る秋空のもと、げんきもりもりフェスティバルを開催しました。当日は、保護者やご家族の皆さまなど多くの方々が来園され、子どもたちに大きな拍手を送ってくださいました。また、PTA 役員の皆さまには、準備等を含めたくさんのサポートをしていただきました。皆さまのご支援とご協力により、今年のもりフェスも大成功でした。

今回のもりフェスを振り返って、年長の子どもたちが次のような感想を聞かせてくれました。「ダンスを楽しく踊れてよかった」「つみつみゲームで負けてくやしかった。もう一度試合を申し込みたい」「リレーでバトンタッチが楽しかったので、またやってみたい」・・

年中「フラワー」

年長「元気出してワッショイ！」

年少「いろいろたんけんたい」

子どもたちはもりフェスを通して、目標に向かって努力することの大切さ、一つのことをやり遂げた満足感、友達と力を合わせることの素晴らしさなど、たくさんのことを学んだことでしょう。この経験を、ぜひ今後の幼稚園生活に生かしていってほしいと思います。

≪年少≫ 絵本の読み聞かせ

１０月１日（火）、読み聞かせボランティア「本読みママさん」を園にお招きし、年少の各学級で絵本の読み聞かせをしていただきました。

１冊目の絵本は、胴長のダックスフント・プレッツェルがグレタへのプロポーズを愉快に描いた「どうながのプレッツェル」。そして２冊目は、野原に落ちていた真っ白なたまごをめぐって色んな動物たちのやりとりが楽しい「ふしぎなたまご」でした。子どもたちは終始食い入るように絵本を見つめていました。最後にママさんから「よく聞けました。すてきさんでしたね。」と、お褒めの言葉をいただいて、子どもたちはご満悦でした。秋の夜長、絵本を囲んでお子さんとじっくりふれあうのも素敵です。

≪年中≫ 県立つぶらの公園へ

１０月２２日（火）、山北町の山間部にある神奈川県立つぶらの公園へ年中の子どもたちが行ってきました。はじめは、クヌギやコナラなどのどんぐりを集めたり、自分の顔よりも大きな葉っぱを拾ったりしました。みんな揃ってお弁当を食べた後は、斜面に大きく広がった芝生の上で過ごしました。芝生に仰向けになって深呼吸をする子、友達と追いかけっこをする子、坂の下に向かって丸太のように身体をぐるぐる回転させる子など、思い思いの遊びを楽しみました。また、東屋で画用紙にどんぐりの絵を描いた子もいました。

帰りのバスの中は、行きとは打って変わってシーンと静まり返っていました。あちらこちらから小さな寝息が聞こえてきます。きっと今日の楽しかったことを夢みていたのでしょう。お弁当や持ち物の準備などありがとうございました。また一つ、素敵な思い出が子どもたちの心に刻まれました。

幼稚園公開日に 33 組

９月２４日（火）、来年度、開成幼稚園への入園を検討されている方々を対象に保育の様子を公開しました。当日は、合わせて３３組の親子が幼稚園を訪れ、「わくわくタイム」を参観しました。

お絵描きやお店屋さんごっこの仲間に加わって在園児と一緒に仲良く遊び出す子もいれば、在園児に混じってブランコやすべり台などの遊具で楽しそうに過ごす子もいました。はじめは緊張していた未就園児でしたが、親しみを込めてやさしく接するお兄さんやお姉さんにすぐに打ち解けていました。およそ１時間の公開でしたが、開成幼稚園の魅力をたっぷりと感じとっていただけたのではないでしょうか。「来年、待ってます」という私の呼びかけに、笑顔で頷いた子の姿がとても印象的でした。

・・・・・・・お 知 ら せ・・・・・・・

令和７年４月に開成幼稚園に入園を希望する幼児（年少・年中・年長）を募集しています。

◇入園要項配布　期間：１０月３１日（木）まで
　配付場所：町役場学校教育課または開成幼稚園

◇入園申込み
　期間：11 月１日（金）～11 月 29 日（金）
　申込み場所：学校教育課

お米の変身！？

栄養バランスのとれた献立を考えたり、食事の大切さを子どもたちや家庭に伝えたりなど、子どもたちの食生活を支える縁の下の力持ち―米村栄養士。先日、１階廊下の給食用掲示板に「おこめのへんしん」という興味深い内容がお目見えしました。10 月 18 日にルクミーで配信した鈴木園務主任の記事を紹介します。

新米が美味しい季節ですね。

毎日の給食の献立が表示されている掲示板には今、稲穂の実物が飾られています。お米がたわわに実った稲穂のほかに、もみ殻や玄米、白米の実物も置かれていて、子どもたちは「これもお米？」「つぶつぶだ」「ごはん大好き～」と触りながら友達と会話を楽しんでいました。

これらのお米、実は栄養士の米村先生のご実家で作られているものだそうです。開成町にも田んぼが多くあり稲穂を目にする機会はありますが、実際に触ったり近くで見たり、いつも食べている白米にどのように変身するのかを知ることができる掲示の工夫に、子どもたちは興味津々でした。

その季節の旬の食べ物を美味しくいただくことができるのは幸せなことですね。

（担当：鈴木）

ひだまり

現代っ子の体力

▼運動会は、スポーツの秋を代表する行事として、教育現場や職場、地域などで昔から親しまれ大切にされてきています。それは、単なるスポーツイベントという意味合いに止まることなく、体力の向上や健康の保持増進も同時にねらっています。今回、開成幼稚園の運動会「もりフェス」では、自分の力を発揮し主体的に取り組む態度の育成もねらって実施しました。▼運動会というイベントがいつ始まったのか気になり調べてみました。その起源は古く、今から１５０年前にさかのぼります。日本最初の運動会は、１８７４年（明治７年）に東京の海軍兵学寮で開催された「競闘遊戯会」とされています。すずめのすだち（徒競走）、ふるだぬきのつぶてうち（玉投げ）、ちょうのはなおい（二人三脚）など、ユニークな種目名が連なっていました。その後、１８７８年（明治11年）に札幌農学校で「力芸会」が開催され、徒競走や二人三脚の他に障害物競走や食菓競争（パン食い競走のルーツ）など、レクレーション性の強い競技が行われました。さらに、１８８２年（明治15年）に東京大学で「運動会」という名称が初めて使われ、その後全国に広がり定着しました。▼先日、スポーツ庁から「令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果が公表されました。調査対象は全国の小学５年生と中学２年生です。小学生の種目別の結果では、15年前と比べて、男女とも長座体前屈が向上しましたが、その他はほぼ横ばいか低下しました。特に握力とソフトボール投げの記録が大きく落ち込みました。現代っ子の体力、運動能力の低下が改めて浮き彫りになりました。▼運動・食事・休養及び睡眠、これを健康三原則というそうです。今回の調査から、朝食を食べない子、睡眠時間が十分でない子、また、スクリーンタイム（ゲームやテレビなどの時間）が増えている事実も分かり、このことが体力や運動能力の低下と相関関係にあることが明らかになっています。体力や健康は人間の活動の源です。しっかり食べて、しっかり寝て、しっかり運動することの大切さを子どもたちに伝えていけたらと思います。